

平成26年度 第2回 社会教育委員会議・公民館運営審議会会議録

日 時：平成27年2月19日（木）午前10時～11時30分

場 所：鳥取市文化センター 2階 大会議室

出席委員：＜委員＞栗岡委員、徳田委員、村山委員、松本委員、森田委員、
稲垣委員、懸樋委員、川木委員、吉澤委員、土井委員、
外川委員、田中秋年委員、田淵委員、伊藤委員、田中豊
朗委員、清水委員、大西委員

（欠席：中嶋委員、土橋委員、米沢委員）

＜鳥取市子ども会連合会＞福田理事、阪田（事務局）

＜事務局＞北村課長（生涯学習課）、吉田課長補佐（同左）、久田主
査兼青少年係長（同左）田中指導主事（学校教育課）
石上指導主事（学校教育課）

※発言内容等について、事務局で一部加筆訂正しています。

1 開 会（進行 北村生涯学習課長）午前10時

2 会長あいさつ

3 協議事項（進行 土井会長）

これ以降、土井会長が議長として進行した。

(1) これまでの審議結果について

（「子どもたちを中心とした社会教育の活性化について」）

（事務局説明）

〔議長〕 なにかご意見はないか。

〔委員〕 ここでのデータから、「まじめだが自分の発想で動く応用力がない」という点は読み取る事ができないと、以前に指摘した。子どもたちが持っている学力上の応用力はないわけではない。むしろ地域の中で、自分たちが地域を変えていけるような機会を与えていないのであって、このような結論を導くには無理があるように考える。これを取りまとめ案に盛り込むことは再検討いただきたい。

〔事務局〕 この点については訂正したい。

〔委員〕 子どもたちに対する観点が重視されているが、大人たちが地域に貢献したいという姿勢が欠けているから、子どもたちもそのような力が育たないように考えている。

(2) ジュニアリーダー養成の現状と課題について

〔市子連〕 一部の地域の子ども会活動でジュニアリーダーが養成され、様々な研修会にも参加していた。しかし、子ども会は小学生で終わるように捉えられてしまっており、さらに中学生になると勉強や部活で参加しなくなってしまう。中学生対象のジュニアリーダー養成に、小学校4年生くらいから声をかけて参加してもらい、そのような参加者が中学、高校と残っている。先日も台湾との交流に2名が参加した。

また、東部と西部では温度差が大きい。西部ではジュニアリーダーからシニアリーダーへと移行している方が多い。鳥取は今そこまで進展していないのが現状であるが、今、中高生が月に1回の定例会を開催している。以前は実績を重視していたが、現在は過程を大切にしている。少しずつではあるが、自分たちで計画、立案、実施と出来ている。これを一部の地域だけではなく、他の地域に広げていきたい。公民館などで子どもが集まる機会に子ども会活動を知らせることができればと思う。

さらに、ジュニアリーダーの面白さを広める機会を増やしたいと考えている。毎年参加しているしゃんしゃん傘踊りでは、今年度から中学生の参加を認めて、これがジュニアリーダー活動に広がれば、と思っている。中身を知らない子どもたちが多くいることを課題に感じている。

〔委員〕 住みよい地域づくりに貢献する大人を増やすことが子どもの成長へ繋がると考えている。

〔議長〕 子どもたちを中心とした地域づくりという観点から議論を集約させていきたい。ジュニアリーダーについて、困っていることなどはどうか。子どもたちを引き込んでいくときに課題に感じていることはなにか。

〔市子連〕 今は小学生からクラブ活動が盛んに行われている。事業が重なることは多く、クラブと連携を取って調整する必要があると感じている。中学校では事業と夏季休暇の登校日が重なることもあり、参加者は出席扱いにしてもらったこともある。このような横の連携を作っていくことが必要に感じている。

また、地域間の温度差が広く、底上げを図っていく必要も感じている。

〔委員〕 子ども会を組織する「地域」の範囲は公民館区域を基本に考えているのか。それとも、小学校区で考えているのか。

〔委員〕 基本的には公民館単位ではないか。しかし、自治会に加盟していない世帯が多い地域もあり、一様ではない。

〔議 長〕 子ども会活動はそれぞれの自治会で組織され、その活動場所が公民館等になるという理解でよいのではないか。

〔市子連〕 地域内のみで活動して、市の活動には参加しない団体もある。市の活動ならば広く外部とのつながりができるので、参加してほしいが。

〔委 員〕 各地域には規模や自治会活動などで大きな差がある。子ども会活動活性化のキーとなるのは公民館ではないか。

京都では公民館がない代わりに、それぞれの自治会が非常にしっかりしていて、学校支援などにも加わっている。このようなしっかりとした基礎がある。鳥取市の活動は学校を基礎単位とするのか、公民館を基礎単位とするのか、はっきりしないのだが。基礎単位が小さすぎると、中学生の参加は難しいように感じている。

〔委 員〕 個別の集落では子どもがおらず、地区全体でまとまらないと活動できないという実態もある。

〔議 長〕 広域的な連携も考えていく必要はあるだろう。

〔市子連〕 集落では人数が少なくて活動できなくても、市に参加すれば様々な活動ができるということを指導者たちが知ってくれば、と思う。

(3) 学校支援ボランティアの現状と課題について

(事務局説明)

〔議 長〕 事務局から情報提供いただいた。このような活動に、地域の方に参加していただきたい。学校支援ボランティアについても、活動の情報発信が課題に挙げられており、子ども会活動についても同様である。保護者が子ども会活動に与える影響はどうか。

〔市子連〕 保護者が中心となって子ども会活動が行われている場合もある。また、積極的に子どもを参加させる保護者もあれば、参加させられない保護者もある。保護者の理解も必要だろう。

〔委 員〕 ここで紹介されている学校支援は、地域の方が学校に出向いて行う活動である。地域や文化施設に子どもたちを招いて伝統行事を行うなど、学校外での活動事例もある。学校支援ボランティアをもう少し広くとらえていただきたい。

〔事務局〕 ここで紹介した事例は、この事業に参加した学校のみなので、各校で独自に様々なことを行っている。

〔議 長〕 学校支援に関わっている方たちが子ども会活動にも加わってくれば、さらに広がるのではないだろうか。関係性の構築が重要になってくる。資料の図を参照いただきたい。

子ども会活動においては、ボランティアやものづくり道場など関係

諸団体との連携が欠如しているように感じている。

子ども会育成連絡協議会が全体をコントロールすれば、活動の円滑化が図られるのではないか。県や国を視野に入れた活動をするならば、そのような団体が必要となってくる。

(4) 子どもたちを中心とした社会教育の活性化について (案)

(事務局説明)

[議長] 今までの議論を踏まえて、提言をまとめたいが、いかがだろうか。

[委員] それぞれの地区に組織されている生涯学習推進協議会はどのような位置づけになるか。

[事務局] 各委員にはそれぞれ生涯学習推進協議会委員になって頂いている。生涯学習推進本部は市長を本部長にして、生涯学習の推進を図っている。そのような場でご意見をいただいて、振興は図って頂きたい。

[委員] 地域によっては、生涯学習推進協議会がまったく見えてこない。また、青少年育成協議会も各地域にはあるが、どのような関係か。

[委員] この提言の主語はだれか。「鳥取市」か。誰が子ども会の活性を行うのか、はっきりさせておく必要がある。

[事務局] 子ども会の推進体制を考える際、どこが中心となっていくのかが問題である。最終的には市になるとは思いますが、様々な関係性を考慮しなければならない。

[委員] 子ども会連絡協議会が全体の指揮をとるのであれば、実働は公民館になるのか、市がどのように動いていくのかははっきりさせなければならない。

[議長] 今後、計画をどのように機能させていくのか、という点へ落とし込んでいく過程になる。現在、取りまとめていくことは方向性に留めたい。

[委員] 課題を共有する場合は、子ども会連絡協議会でよいのか。また、人材バンクの利用範囲は広げるのか。

[委員] 提言にみられる地域は、それぞれの地域で全く異なるので、その差を踏まえて作られているのか。

[事務局] 用瀬以外では生涯学習推進協議会の活動は低調であり、公民館が生涯学習を行っている。

[議長] 冒頭の現状部分に、各委員からの提言として、鳥取の子どもたちに地域で活動する場が与えられておらず、自らで企画して事業を行う機会が少ないなどの意見が出された、という記述を加えてはどうか。

[委員] 異議なし。子どもたちに問題があるような記述は避けるべきだ。

〔委員〕 少子化という言葉も含めていただきたい。

〔議長〕 承認される方は拍手をお願いしたい。

(承認多数)

(5) その他

〔委員〕 平成27年度の中四国社会教育研究大会は山口で開催される。3～4名の派遣があれば、と考える。

〔委員〕 「ボランティア」と言えば、無償というイメージが高い。しかし、現状は金銭的に困窮している学生が多い。そのようなことをご存じいただき、ボランティアの際も学生の生活を考慮に入れていただけるとありがたい。

4 その他

〔事務局〕 現委員の方の任期は5月末までとなっている。次期委員の方々には、新しい鳥取市生涯学習推進基本方針を策定していただく計画にしている。

5 閉会 午前11時30分